

# 国語表現 年間計画

校長	印	教頭	印
担当者			

教科	国語	単位数	3、2単位	学科・学年・コース・組	園芸科3年1組（3単位）普通科3年2、3組（2単位）
使用教科書	『国語表現Ⅰ 改訂版』（教育出版）				
副教材等	『国語表現Ⅰ改訂版 演習ノート』（教育出版）国語辞典、漢和辞典				

## 1 学習の到達目標

- ①「話すこと・聞くこと」「書くこと」の学習をバランスよく取り入れたうえで、「読むこと」との関連も視野に入れ、適切に表現する力を育成し、伝え合う力を高めるための、表現する側と表現される側と双方からの立場での実際的なコミュニケーション学習を中心に、高等学校でのすべての学習を支える基礎力を養う。
- ②伝え合う力を高めるための実際的なコミュニケーションを想定した学習を中心に、思考力を伸ばし言語感覚を磨き、すすんで表現する態度を身につけ、社会性を高める。

## 2 主な評価方法 発表・提出物・作品応募

## 3 学習の計画（どのような内容を、どの時期に学ぶのかを含む。）

A：話すこと・聞くこと B：書くこと C：読むこと ★〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕

月	単元名	領域	主な学習活動（指導内容）と評価のポイント
4	対話	A	・客観的に自己を見つめ、他者に伝えるように説明をする。・相手の話を聞き、相手を理解する。
	ことばに変える	B	・速く正確に、書かれたとおりに書き写す・聞いた通りに書き取る・メモを取る／メモで伝える／適切なメモ・絵をことばにする／絵をことばに変える／部屋の間取りをことばに変える
5	声の表現	A	・「書くこと」の中でも最も基礎的な「視写」「聴写」を行い、自己の表現能力の実態を把握する。
		B	・情報を取捨選択し、整理・記録する為の基本的な技術を確認する。 ・絵や部屋の間取りをことばに変える作業を通して、ことばによる表現の可能性と限界を理解する。
6	コラムを書く、本を作る	A	・呼吸の仕組みと腹式呼吸の方法について理解し、発音に留意した声の出し方を学ぶ。
		★	・声を発することの本質について深く考える。・古文の読み方についても基本となる留意事項を理解する。 ・文の構造を把握し、その意味を伝える音読の仕方、特に声の高低や間の工夫について学ぶ。 ・スピーチのための事前準備について理解し、実際に本番を体験することで、その方法を学ぶ。 ・他者の興味関心をひく文章の紹介と朗読の工夫について習熟する。
中間調査			
7	ことば遊びと創作	B	・他者を喜ばせる文章の特性を知る。・コラムを読み、文章の魅力と効果的な手法を見つける。
9	ことばと人間	B	・よりよい文章表現を工夫し、コラムを書く。
		C	・基礎的な推敲の方法について理解する。（悪文チェック）・「17歳のメッセージ」等への応募
期末調査			
10	小論文・レポートを書く	A	・様々なことば遊びの体験を通して、言語表現の多様な側面を理解し、またその楽しさを知る。
		B	・川柳という伝統的な文芸ジャンルについて理解を深めるとともに、実作を通して、ことばの持つ批評性を知る。
11	会話・会議・発表	C	・情報化社会における広告の意味とその特徴を理解し、「広告コピー」を作成することで情報を客観的にとらえ、批評的に読み取れることを学ぶ。
		★	・古典文学への誘いとして、俳句の季語を著名な句の鑑賞とともに学び、創作・作品応募する。
12	自己との対話	A	・ことばのもつ順序性からことばの性質について考える。
		B	・単語の順序が意味決定を左右することを理解する。・場面における意味決定について理解する。
1	世界との対話	C	・語源カードを作成し、辞書・辞典を使って語源調べを行う。
		★	・挨拶や待遇表現のことばが人間関係の調整にどのように働いているか考える。 ・ことばの可能性と危険性についてさまざまな角度から考える。また、ことばが人間の命を左右するほどの力を持つことを理解する。
中間調査			
2	情報の海を航海する（メディアのリテラシーへ）	A	・発想・着想段階における拡散的思考を体験的に学ぶ。・小論文の構成について理解し、論理的文章力を実践的に高める。
		B	・根拠を明確にし、意見に説得力を持たせるとともに、対立意見を想定しながら、自らのそれを明確にし、論証の確かさを鍛える。
3	情報発信	B	・実際に小論文を執筆して文集にまとめると同時に、他者との相互批評をとおして問題意識や認識を深める。
		C	・執筆以前の調査や研究の流れを理解し、集めた情報を適切に整理した上で、実際にレポートを書く。
中間調査			
4	自己との対話	A	・書きことばと話しことばの相互変換作業によって、効果的なコミュニケーション技能に習熟する。
		B	・家族会議の記録を題材に、意思決定・合意形成のための方法やルールについて理解を深める。
5	世界との対話	C	・話しことばの対面コミュニケーションとしての長を生かした表現技術を学び、効果的な情景の提示方法などについても習熟する。
		★	・多数決という意思決定の原理について確認する。
期末調査			
6	自己との対話	A	・年譜作成をとおして、時代や社会の動きと自己の体験を対比し、その関係について考える。
		B	・モノに付着している「記憶」＝物語を読み取る。
7	世界との対話	C	・過去の体験に結びつく材料を通して、埋もれていた「記憶」を言語化する。また、ズームアップ7の学習を通じて、自分の過去を記録することについての考えを深める。
		★	・ルソー『告白』を読み、自分史を書くことの意義と方法について考え、理解を深める。・自分史を読み合い、相互批評する。
8	世界との対話	A	・伝統的な手紙の形式を学び、場面に応じたことばの意味について理解を深める。
		B	・形式にとらわれない手紙を書くことで、表現の可能性について考える。また、自分らしい手紙の姿を探る。
9	世界との対話	C	・面接における必要な心構えと技能を身につける。
		★	・自己分析を行い、自己演出を意識して面接という場面における表現のあり方について理解を深めるとともに、表現方法を工夫する。 ・社会の問題に目を向け、実際に投書をする中で、自己のことばを社会に発信する表現行為そのものを実践する。
10	情報の海を航海する（メディアのリテラシーへ）	A	・わたしたちの表現手段には実にさまざまなメディアが存在することを知り、その特性について理解する。
		B	・同一の対象についての記事でもその表現内容に違いが現れることを理解し、メディアが立場の違いをメッセージに反映させていることを理解する。
11	情報の海を航海する（メディアのリテラシーへ）	C	・情報を発信する場合には、読み手が理解しやすいようにメディアの特性を生かした編集上の工夫が必要であることを理解し、実際に表現してみる。
		★	
学年末調査			

